

東海女子大学紀要第10号に寄せる

本学は神谷学園理事長神谷一三先生及び東海女子短期大学学長・東海女子大学副学長神谷みゑ子先生の高遠な建学の精神と献身的な努力によって昭和56年4月美濃の国は長良川にほど近く理想的な教育環境の小高い丘の上に創立された。

その建学の精神「国際的視野を備えた社会性および創造性豊かな女性の育成」を具現するために本学の文学部は国際性と学際性を標榜して特色ある組織の「英米文化学科」と「人間関係学科」の2学科を設け、来るべき世紀に相応しい国際性豊かな人間形成と広い視野に立つ学問の道に真摯な十年の歩みをすすめて来た。

大学の基本的性格が「研究と教授」の機関であることは論を俟たない。学校教育法に「大学は学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究教授し、知的、道徳的および応用的能力を展開させることを目的とする」とある如く、大学の本質的使命は学問の本義に徹して学芸を研究することであり、その研究の成果を学生に教授するわざを通して大学教育は展開されて行くのである。それ故、教授陣は教育者として自己の品性の陶冶をはかると共にそれぞれの専門分野の研究に情熱を注ぎ学問の水準を向上させて行くことが要請される。それにより大学の存在価値は高められ学生の研究意欲は昂揚して大学教育の充実と発展がみられるのである。

大学の学問の水準を世に問うものは、いうまでもなく研究紀要である。本学の
高橋悌蔵初代学長は、大学が学問の府なることを深く認識されて教授陣の研究と
その発表に特に意を用いられ、本学の研究紀要の創刊号を実に大学創立のその年
のうちに刊行されているが、尊敬する先達の意図は本学の学風となって継承され、
その後も逐年期日を定めて続刊、本年ここに教授陣の研鑽の成果を「第10号」と
して世におくることができるのは誠に欣快にたえない。このことは、ひとえに理
事長の指導と支援のもとに本学関係者・教授陣すべてが大学の使命感に燃えて一
致協力して来たことの証である。また、この十年間にわたり、教育活動の多忙の
中であって珠玉の如き論稿を執筆された教授諸氏、並びに紀要の構成と出版の労
をとられてこられた編集委員諸氏に深く敬意と感謝を捧げるものである。

ここに「東海女子大学紀要第10号」を発行するに当たり、本学が教育と学問
の府として蔚然たる大樹として栄えることを祈念すると共に、本学紀要が今後益々
充実して斯学のために、また地域社会のために貢献されることを期待するもので
ある。

平成2年10月

東海女子大学学長 曾 根 暁 彦